周

生徒の「やりたい」を、学校と

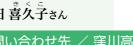
名の専属コーディネーターと地域住民が連携し、その挑少人数だから、新しいことに挑戦しやすく、教員や3「DXハイスクール」に指定された窪川高校。 戦を全力でサポー トする環境が「最大の魅力」です。 一に指定された窪川宮省より県内の中山間宮 山間校では唯











DXコーディネーター 前田 喜久子さん

地域が応援し、実現できる場所。



挑戦から得た確かな手応えと成長

ベントになるような「文化祭」にしようと、ります。単なる学校行事ではなく、町のイに開催された「新文化祭」を生徒が振り返ことをしたかった」と、令和6年11月23日「今までの常識を捨て、何かぶっ飛んだ 校の新文化祭。 **令和5年度にリニューアルされた窪川高**

2年生が中心となり、企画から準備、運営の全てを行い、地域の協力を募りなが営の全てを行い、地域の協力を募りながら開催しています。以前は300名だった来場者は今年900名を超え、生徒のた来場者は今年900名を超え、生徒のかその周辺にも大きな変化をもたらしています。

「生徒の挑戦が

学校の雰囲気を変えている」

の学校だから実現し

ビニ 新文化祭に彩りを添えていま ニール傘。生徒の自由な発想が、今年の中庭に飾られた300本のカラフルな

くれる環境にあるんです」。生徒の挑戦を先生や地域の方が応援して

わってきています」と前田さん。「ここは、「以前と比べると、学校の雰囲気が変

想、さらなる挑戦を生み、学校の雰囲気をこの環境こそが、生徒たちの新たな発

変えているのです。

「生徒たちには、この3年間、

もっともっ

学校。これ以上の青春はないのかもしれます。仲間とやりたいことに挑戦できる協力して形にしてくれた」と生徒は笑い「無謀な提案だと思ったけど、みんなが

す。この学校は、それがやりやすとやりたいことに挑戦してもら

んだから」と笑顔で話してくれ

来場者の胸を打つ生徒の自主性と地域との関わり

大人になってもらい自分で起業できる

存会」の協力を得て、約2か月間の稽古を太鼓グループ「四万十川とどろき太鼓保鼓」がオープニングを飾りました。地域の鼓」がオープニングを飾りました。地域のする式典が挙行され、「四万十高校若衆太中和6年11月16日、創立70周年を記念 令和6年11月16日、創立701

生かした教育環境づくりに取り組んでい域をつなぐ橋渡し役として、地域資源を推進員を務める小野雄介さん。学校と地し、今は四万十高校の地域学校協働活動

今は四万十高校の地域学校協働活動、年前に地域おこし協力隊として着任

節目となる式典で、地域の伝統文化で積み、この日を迎えました。 十高校そのもののように感じました。した教育環境づくりに取り組む今の四万徒が披露できたことは、地域資源を生かある「太鼓」を、地域住民の協力を得て生

残れないって、言ってほしくないんです」残れないって、言ってほしくないんですったいるんでしょうね」と小野さん。「子どち々との交流を通じて、良い刺激を受け性です。県外生との学校生活や地域の情です。県外生との学校生活や地域の

と言います。

「グッパ」 も掛け声が違う!?

生は違うき、おもしろいで」と地元生は笑いる「グッパ」。そんな掛け声さえも、「県外グーとパーでチーム分けをする際に用

なっているようです。
十代の生徒たちにとっては大きな刺激と生徒同士の交流は、私たちの想像以上に、混ざる日常。多様な価値観や経験を持つ混がる日常。多様な価値観や経験を持つ

学者を募集。地元高校に居ながら、 全国でも数少な 「地域みらい留学」にも参画し、全国かられて流域の豊かな自然が学べる四万十高校。も数少ない「自然環境コース」が設けられ、 県外生との交流が参画し、全国から入



四万十高等学校

県外生との学校生活が

青春に発見と刺激を加える。

近年、

できる環境は

「最大の魅力」

です。













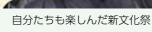
体育館での体育祭もいい思い出

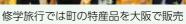
地域学校協働活動推進員

小野 雄介さん









校のDXコーディネーターとしともある前田喜久子さん。今は

のDXコーディネーターとして、最先もある前田喜久子さん。今は、窪川高「町営塾じゆうく。」の塾長を務めたこ

端の情報技術を生徒たちに楽しく伝えて

イベントで生徒同士の絆が深まる

歓迎イベントへと変化した体育祭

「なぜ」という発想で取り組む

総合的な探究活動